

日本老年医学会「高齢者の人生の最終段階における医療・ケアに関する立場表明2025」（令和7年6月27日）

日本老年医学会は、高齢者の人生の最終段階における医療・ケアをめぐる医学的状況と社会環境の変化を踏まえ、2001年に最初の「立場表明」を発表し、その後、「立場表明2012」へ改訂しました。そしてこのたび「立場表明2025」へと再改訂しました。

2015年に厚生労働省が『人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン』を改訂した際に、「終末期」という表現を「人生の最終段階」としていましたが、その言葉の定義付けなどは各領域や学会に一任されていたことから、今回、国内で初めて日本老年医学会がこの用語の定義を示しました。

「立場表明2025」全文

<https://jpn-geriat-soc.or.jp/proposal/pdf/tachiba2025.pdf>

#### ■ 「立場表明 2025」における用語の定義

#### ● 「人生の最終段階」

「立場表明2025」における「人生の最終段階」を以下のように定義する。

- ①〔医学的見込み〕病状や老衰が不可逆的で、更なる治療によっても状態の好転や進行の阻止は見込めず、遅かれ早かれ死に至ることが避けられない。
- ②〔人生についての見方〕①を踏まえ、医療・ケアチームが本人の人生全体を眺める視点で、本人は人生の物語りの最終章を生きていると考えられ、本人が表明してきた人生に関する意向を尊重したうえでも、そう考えることができる。

以上の①と②が満たされている時、本人は「人生の最終段階」にある。

厚生労働省：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン

<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10802000-Iseikyoku-Shidouka/0000197701.pdf>